



現状のままで 西播磨拠点病院としての 役割が果たせるのか

小路克洋 議員



問 赤穂市民病院は、西播磨圏域において、救急医療・災害拠点病院・地域がん診療拠点病院等の役割を担っているが、現状では、医師不足や医療機器の最新鋭化も遅れている。この現状で、市民病院の使命や地域拠点病院の役割が果たせるか疑問である。原点に返り、問題点を考え直す時に来ていると思うが、お考えを伺いたい。

答 市民病院としては、西播磨医療圏域の拠点として、地域に必要な医療を確保する役割があると考えている。そのためには、常勤医師の確保や最新医療機器の導入など、病院機能の充実に努める必要がある。また、第二期基本構想は市民病院が将来にわたって、安定してその機能を果たしていくため必要な整備を行うものであり、院長を中心に病院職員が一体となって、医師・看護師等の充実を図っていく。



西播磨の拠点となる赤穂市民病院

その他の質問事項

●障がい者にやさしい福祉のまちづくりについて

有年ポンプ場の 有効活用の方策について

山田昌弘 議員



問 有年ポンプ場は、区画整理地内北側の内水対策として、今年竣工した。集中豪雨時の浸水を防ぐ、地元への期待が大きい施設である。しかし、区画整理事業完成までは、限定的な運用になると考える。事業完成までの運用を、横尾川流域での内水対策に有効活用できないかと考えるが、お考えを伺いたい。



有年ポンプ場

答 有年ポンプ場の計画区域は、現国道2号の北側、有年第1排水区47ヘクタールであり、横尾川流域の雨水幹線は、ここ数年で整備する。現国道2号の南側、有年第2排水区14ヘクタールは、横尾川に直接放流する区域として位置付けられており、当地区の雨水整備は、事業計画に沿って進めたいと考えているので、ご理解願いたい。なお、降雨量によっては、調整池の状況を見ながら対応していきたいと考えている。

その他の質問事項

●災害時発生時の対応について

市民病院第二期基本構想は 計画通り進められるのか

家入時治 議員



問 入札不調が危惧される昨今、市民病院が、第二期基本構想の費用総額を36億円としたのは昨年のことである。今年になって、国が工事単価を引き上げ、さらには建築材料が高騰し続けている。36億円には工事単価の引き上げ、建築材料の高騰など見込んでいたのか。また、工事仕様や予算を見直す考えがあるのか。

答 工事単価は、第二期基本構想策定時点における工事単価の値上げで積算しており、今後の値上げや建築材料の高騰は見込んでいないが、立体駐車場の整備は、対象業者より参考見積もりを徴取し、工事仕様や予算の見直しも視野に検討している。市民病院の増改築は、現在、設計業者の選定を行っており、7月下旬に決定する。また、工事仕様は、今後の基本設計及び実施設計において、予算も含めて実態に即した一定の見直しは必要であると考えている。

その他の質問事項
●子ども・子育て支援新制度と幼稚園舎改築事業について



増築予定の赤穂市民病院北側